



メジロ



シロハラ



コゲラ



ツグミ



ヒヨドリ



ルリビタキ



エナガ



カワラヒワ



ノスリ

ふじのくに地球環境史ミュージアムの建物裏の森を自然観察ができるように、観察路の整備が行われています（関連記事P2参照）。この観察路には、冬場、野鳥たちが果実を食べに集まる木がいくつかあります。その一つが、自然観察路入口近くにあるハゼノキです。ハゼノキの果実は、5~20mmほどと小さく、淡褐色の地味で目立たないものですが、高カロリーで野鳥には人気の餌のようです。

このハゼノキの近くに腰をおろし、観察していると様々な野鳥がやってきます。よく見かけるのは、メジロ、ジョウビタキ、ツグミ、シロハラ、ヒヨドリ、キジバト、コゲラで、まれにカワラヒワやエナガなどの群れ、ルリビタキなども来ることがあります。そして、時にはキツツキの仲間のアオゲラ（表紙の写真）やアカゲラも見られたことがあり、また、これらの小鳥をねらって、猛禽類のノスリが、すぐ近くの上空に飛来したこともありました。

これらの野鳥たちが集まり果実が減ってくると、最初は警戒心を持っていた野鳥も、奪い合いをするように果実をむさぼり食べるようになってきます。この頃には、野鳥は食べる方が優先で、すぐに逃げださないようになり、観察がしやすくなります。そして、正確ではありませんが、果実は一ヶ月もたない内に食べつくされ、その後、すっかり果実がなくなったハゼノキには、ほとんど野鳥が来なくなり、寂しい状態になります。そこで、この冬は少しでも長い期間、野鳥観察が楽しめるように、ハゼノキのすぐそばに鳥の餌台を設置してみました。餌は、鳥餌として売られているアワやヒエ、ヒマワリの種、みかんなどを置きましたが、すぐには野鳥は来てくれません。よほどハゼノキの果実は、野鳥にとってごちそうなのでしょうか？

餌台を設置して一ヶ月経過した頃、ようやく餌台近くに蒔いた餌に、アオジなどが集まるようになってきました。まだまだ寒い時期が続く、自然の中で餌となるものが減り始めているので、これから徐々に餌台に集まる野鳥が増えてくるのではないのでしょうか。自然観察路「せいぶつたようせいのみち」は今年3月末に一般の方でも入れるようになる予定です。はやく皆さんにも自然観察が楽しめるよう、環境づくりを整えていきたいと思います。